



FUTABA JOURNAL

静岡市葵区追手町10-71
静岡 雙葉 学園
新聞 部
電話 (054)271-3254
印刷所 ササキデザイン社

始まる 待ちわびた中学校生活



▲ リコーダーの練習をする吹奏楽部の新入部員

五月三十日に約二カ月遅れとなる入学式が行われ、百四十一名の生徒が入学した。一座席ずつ前後左右を空けて着席し、保護者同伴は一名までとした。

中一オリエンテーションでは、密を防ぐために一分間の部活動紹介動画を撮影し、中一生は各クラスで視聴した。画面を通してではあるが、それぞれの部活の良さが中一生に伝えられた。新入部員

今できる 最高の 雙葉祭を

今年度の雙葉祭実行委員長である井上和さんとインタビュをした。

なれないお客様のためにオンライン雙葉祭を実施します。また、校内でも感染防止のために様々な対策をした上での実施を考えています。私達はコロナ制限下にあっても皆様に安全に楽しんでいただくことを目指しています。

制限下で、どのように雙葉祭を行いたいのか？
A1 今年、人数制限の関係でお越しに

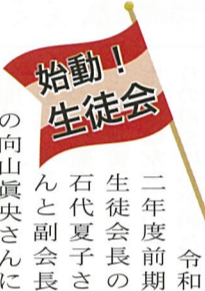


▲ 雙葉祭実行委員長の井上和さんと副委員長の石上莉子さん(右)

が十二名入った吹奏楽部では、入部してから一カ月弱、リコーダーの練習が行われた。飛沫防止や換気が徹底された活動が行われている中で、中一部員は「感染予防をしながらではあるものの部活動が楽しい。」とマスク越しの笑顔で語った。

Q2 今年のスロロガンとそれにかける思いは？
A2 今年の雙葉祭のスロロガンは「80P」です。そこには、雙葉祭が多岐にわたる繋がりや深められるような、人と人との絆を笑顔溢れる幸せな場所となつてほしい。そして今できる最高の形で皆の記憶、記録に残る雙葉祭にしたいという願いを込めました。今年度は様々な制限下におかれています。自分達にしかできない雙葉祭を創り上げたいです。

Q1 スロロガンの向山真央さんにインタビューをした。
A1 会長副会長、先が見えない状況の中で、自分達にできることは小さいが、それを積み重ねていけば何かを変えられるかもしれないという思いからこのスロロガンに決めました。
Q2 会長・副会長になった動機は。
A2 会長 生徒会長を務めた部活動の先輩に憧れていたからです。



令和 二年度前期 生徒会長の石代夏子さんと副会長の向山真央さんにインタビューをした。

中一・中三交流会も長時間の接触を避けて行われた。オメタイと手紙のプレゼントと中三生が制作した動画上映が行われた。五人一組で一文字の紙を持ち、それがつながっていくとメッセージが表示される動画は学校の様々な場所撮影された。また、四クラスそれぞれで用意された動画は中三生の温かい心が伝わるものであった。

新任の先生方の紹介

Q1 座右の銘 Q2 学生時代に熱中したこと Q3 雙葉生の印象

秋元先生



A1 「No Rain No Rainbow」です。これは

後藤先生



高三の担任の先生が受験で行き詰まっていた私にかけた言葉です。その後、思いやりの精神がありプリントを配る時に「ありがとうございます」と言われ、嬉しかったです。

三田先生



書朗読の時間など静かに話を聞き、良いと思いき、また、思いやりの精神がありプリントを配る時に「ありがとうございます」と言われ、嬉しかったです。

トム先生



A1 カエサル「私は見た、来た、勝ったです。力強い言葉だからです。A2 弓道と合気道とゲーム部の活動です。友人との合気道の練習の時に私の体が柔らかくて肘が頭の上まで回り、驚いたのが思い出です。ちなみに今はもう出来ません。A3 みんな元気で、勉強したいという気持ちがあり、感謝しています。

八木先生



A1 初心忘れるべからず」と「日々精進」です。いきづまったら立ち返る所は初心であるからです。A2 大学で初めてやったプログラミングです。完成までには何時間も何日もかかることがありましたが、興味を持ち、ひたすらやっていました。A3 とても元気な印象です。廊下などですれ違った時によく声をかけてくれます。

知ることから始める

七月十一日に、「国境なき医師団」の活動とその信念という題で講演会が行われた。講師に国境なく必要とされる評価基準から設定することができるよう構成されている。大それた特別なことはなくても、自分が頑張ったこととそうでないこと、それが上手にできると、それが上手にできない要因とできなかった要因を追究することは大切だ。それは自己理解、すなわち自分の弱点や自分の武器となり得る点を発見し、向き合っていくことにつながっていく。

A1 一期一会です。なぜなら、人との出会いが一生の宝であり、出会った人を大切に、感謝の気持ちを忘れずにいたいと思うからです。A2 色々な理由で学校に行けない子ども達が通う施設でボランティアをやっていたことです。相手の立場に立つて物事を考えることは、大切ですが難しいと感じました。A3 誠実で真面目だと思います。

キャリアパスポート

社会構造がめまぐるしく変化し続けている現代、キャリア教育の定義もまた変化している。突き当たる課題を乗り越えていくことで、社会に求められている「生きる力」を身につける過程。本校の全学年にも導入されたキャリアパスポート



▲ 雙葉独自のキャリアパスポート

効果的に学習を進める上でPOAサイクルが重要だとされている。雙葉独自のキャリアパスポートでは、生徒自身がそのサ



▲ 感染対策のため一席ずつ空けて座る生徒

石の声

▼一年前の本紙の一面の石の声は新世代「令和」の始まりを祝福する記事であった。一年後、このような状況になると誰が予想できただろうか。今回の新聞は、新型コロナウイルスに関する影響が紙面の多くを奪った。▼コロナウイルス感染者にとつて闘病生活の闘いよりもさらに苦しいとされているものがある。それは「差別」だ。全国では感染者の顔写真・氏名が記載されたビラが撒かれたり、社員に感染者が出た銀行に石が投げこまれガラスを割られたりする事例が後を立たない。▼差別が広がってしまうことで、コロナウイルスが疑われる病状が出て、受診をためらってしまう。そして、結果的に重症化したり感染拡大が起こったりする負の連鎖につながる。▼今、恐れるべきなのは人ではなくウイルスだ。もし自分が感染してしまえば、差別を受けたらどのように感じるだろうか。今こそ、人の立場に立つて考える思いやりの心が必要だ。思いやりの心を一人一人が持つことがコロナウイルス感染収束のための「最も効果的な薬」になるのではないかと。▼地球人皆で乗り越えていこう。一年後、笑顔で暮らしている未来のために。

辛い日々もいつかは終わると信じて

三月二日(月)から本校も新型コロナウイルス感染拡大により、八十五日間休校となった。その影響で、三月・四月に行われるはずであった高3送別会や進学交流会、定期演奏会が中止となった。

二月一日に新型コロナウイルス感染症が指定感染症となつて以来、感染拡大は急激に進んだ。その頃から三密回避が世の中で叫ばれるようになり、様々な活動が制限された。本校でも、高3送別会の中止や卒業式の規模縮小、休校になった三月に実施予定であった行事、そして、多くの生徒が楽しみにしていたであろう吹奏楽部定期演奏会も中止に追い込まれた。

また、最初は自由気ままな生活が始まると思っていた休校も、日を追うにつれて、友達と会えない寂しさ、学校に通って授業を受けられないことによる学習面への不安が強くなっていった。

そんな中、始まったのがオンライン授業であった。それは、休校期間中に抱えていた不安を解消してくれるものであった。中でも英会話などの一部の授業で行われたリモートでのペアワークや、グループワークは、久しぶりに友達と会話をする機会となり、大変楽しい時間となった。



▲GW中、人波が消えた静岡市街

オンライン授業 開始までの道のり

四月十二日に高2・3生のオンライン授業が開始され、さらに十七日には全学年でオンライン授業が開始された。オンライン授業は「Zoom」というアプリを通して行われた。学校のホームページにある時間割のURLからアプリに入ることによって授業に参加することができ、とても簡単であった。登校停止が決まっていたからオンライン授業が開始されるまで約一ヶ月、ウイルスによる今後の展開が全く読めない中、こうして開始できたのは大変であったに違いない。そこで新聞部はICT担当の松岡先生からお話を伺った。

オンライン授業開始にあたって静岡聖光学院の協力があつた。聖光学院は三月からオンライン授業を開始しており、設備や環境を伺った。その後、各家庭のICT環境を調査し、オンライン授業開始に至った。しかし、全てが初めてで手探りであり、また生徒が一度も登校していないままオンライン授業を開始出来るのかと不安があつたという。また学校のICTチームは、先生方がオンライン授業を普段の授業と同じように行うことができるように心がけた。アプリの研修やマニュアル作り、ビジネスチャットでの先生間の情報共有を行った。お話から他校との協力があった。また、先生方の迅速な対応により生徒がスムーズにオンライン授業を受けられたことを知った。私達は多くの人の支えで授業を行っていることに感謝しなければならぬ。



休み時間の過ごし方

オンライン授業期間中は、十五分間の休み時間と一時間の昼休みがあった。そこで新聞部は休み時間をどのように過ごしていたのかを四学年二百十二人に調査した。休み時間は画面から目を離し、目を休ませていた生徒が多かった。

一方、予習・復習や小テストの勉強など普段の休み時間と変わらない過ごし方もみられた。昼休みは昼食を摂る他にスマホやテレビを見る生徒や、運動する機会が少ないため筋トレやダンスをする生徒も多かった。

ダンス動画 本校体育科の思い

休校期間中、外出自粛で不足しがちな運動量を確保する手立てとして、本校体育科の先生方によるダンス動画が在校生向けに公開された。動画に込めた思いや撮影の様子について、動画作成の提案者であり中心人物となつていた榎垣先生にお話を伺った。



▲笑顔で踊る本校体育科

想は、外で運動してほしいとは言いがたい状況下で、屋内での運動をいかに楽しんで行うことができるかという課題から、音楽と共に、一人でも休校明けに友人同士でも楽しむことができるものとして考え出されたものだ。ダンスという手軽に舞う動きを連想することが多いが、今回の動画はトレーニング要素に重点を置き、振り付けは上半身と下半身それぞれに掛かる負荷のバランスも考慮して決めたそうだ。使用曲はWANIMAの「とも」。夏らしい曲調に加え、口ずさんだ時に元気に、笑顔になれる歌詞であることから採用された。

撮影は振り付けの坎べはなし、さらに間違えたら最初から撮り直しという一本撮りにこだわったため、要した時間は五日間に及んだ。撮影そのものはハードだったが、体育科の先生方は笑顔で楽しみながら撮影に臨んでいたという。

コロナ対策の現在

新型コロナウイルスの猛威から生徒や教員を守るため、本校では現在あらゆる感染防止対策が行われている。



▲事務室前に下げられたフィルム

また、三十七度五分以上の体温の生徒に警告音で知らせるサーマルカメラが二階エレベーターホールに設置された。お昼を食べる際にクラスのお友と向き合って話をするのができない、こまめな換気が必要とするなど、もどかしく煩わしく思うことも多いが、一人一人が是非新しい生活様式を実践してほしい。



▲保健室前の消毒液

今年度の新聞部部長になりましたS・Kです。今回は、例年四月号の新聞に掲載されている遠足や入学式、高3送別会の記事の代わりに、新型コロナウイルス関係の特集を載せました。例年にはない記事なのでぜひ読んでみてください。今回も少し遅くなりましたが、無事に発行できました。取材にご協力下さった先生方、生徒の皆さん、ありがとうございました。

編集後記

コロナ禍の学校で

五月二十五日、八十五日の休校期間を経て登校が始まった。正門をくぐると、中庭に先生方によって設置されたメッセーじが生徒達を迎えた。生徒達は友人との久しぶりの再会に心が満たされたと共に学校に通えることへの尊さを実感した。

朝の沈黙の後は飛沫を防ぐために聖歌の合唱からお祈りに変更された。また、昼食時は机を前に向けて、沈黙を守りながら食事をとっている。昼食中に流すBGMをクラスで募集している学年もある。制限された環境の中で充実した学校生活を送れるよう、思索しながら様々な取り組みが行われている。

表彰

- ジュニアドクター育成塾サイエンスカンファレンス二〇一九 特別賞アイデア賞
- 静岡県高等学校総合文化祭放送(朗読)部門 入選
- いっしょに読もう! 新聞コンクール 優秀賞
- 新春全国かるた大会 C級 4位
- 第二十回 静岡県小中学生かるた大会 三位
- 第五十三回 静岡県管打楽器アンサンブルコンテスト 高等学校の部 銅賞(木管三重奏)
- 第四十六回 東海アンサンブルコンテスト 銀賞(木管三重奏)
- 第七回 全日本ポップス&ジャズバンドグランプリ大会 藤崎秀樹賞
- 第二十一回 中部日本個人・重奏コンテスト静岡県大会 銅賞(クラリネット独奏)
- 第二十四回 全日本中学生高校生管打楽器ソロコンテスト県大会(オーボエ独奏)
- 令和元年度 はばたけ未来の吉岡彌生賞 奨励賞
- 第六十回 自然科学観察コンクール 継続研究奨励賞

- 高1東 柳田純佳
- 高2東 佐野成美
- 高1北 山内真理子
- 高2北 竹内さつき
- 高3南 高橋碧
- 高1東 鈴木香
- 高2東 赤桐美紀
- 高1西 今村鼓子
- 高2西 田辺紋奈
- 高1西 石井優希
- 高2北 廣瀬杏樹
- 高1北 服部咲良
- 高1北 梶山日陽
- 高2東 鈴木杏奈
- 高2西 赤桐匡香
- 高1東 勝又美紀
- 高1東 勝又美紀
- 高1東 勝又美紀
- 高2東 山梨有芽
- 高2東 望月彩未
- 高2西 芝口純佳
- 高1東 柳田純佳

今年、新聞部に入部したM・Nです。新聞部に入部した理由は、静岡雙葉のホームページに、FUTABA・JOURNALリンクが貼ってあり、そのページを見た時にこんなカラフルな新聞があるんだと思い、自分もこのような新聞を作ってみたいと思ったからです。また、部活動のページでは楽しそうな様子が伝わってきたからです。これからよろしく願います。

一面担当 愛珠
二面担当 咲良